



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人: 梅林宏道 / 住所: 〒223-0051 横浜市港北区箕輪町3-3-1日吉グリーンエ102
TEL: 045-563-5101 / FAX: 045-563-9907 / E-mail: office@peacedepot.org
郵便振替: 00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座: 横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.19

2006. 12. 15

皆さんの<ひとつの力>で 2代目プリンター 購入にご協力を!

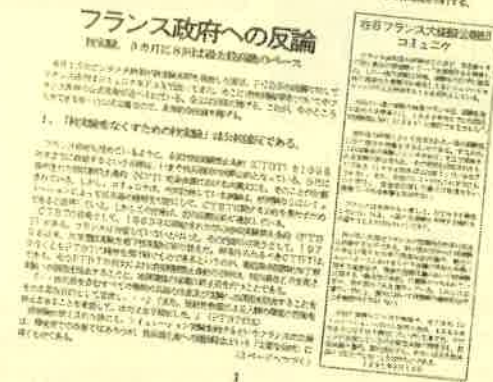
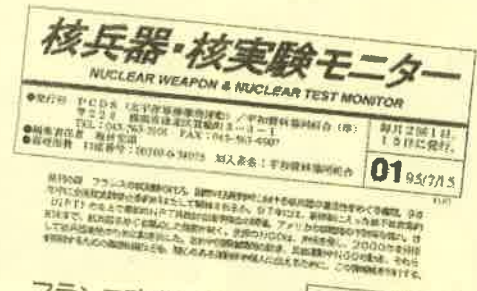
目標額35万円。まだ足りません。 同封の振替用紙で。

1995年7月15日創刊の「核兵器・核実験モニター」は、ほぼ月2回というハイペースの刊行を続け、今年11年目に突入しました。1998年に登場したイアブック(当時は「核軍縮と非核自治体」)も、体裁・内容の両面でグレードアップをはかりながら、これまでに8回の発行を重ねてきました。

ピースデポ事業の柱であるこれら2つの出版物をはじめ、過去10年間以上にわたって、数え切れないほどのブックレット、報告書、パンフレット、チラシ等々の版下を印刷し、ピースデポの発展を陰ながら支えてきたのが、いま事務所にある初代レーザープリンターです。

当時、こうしたポストスクリプト対応のレーザープリンターは現在に比べはるかに高価であったと聞きます。またピースデポが準備委員会の初期のころ、電子にメッポウ強いSさんという協力者がいて、この機種がよいと選定し、準備委員長が自腹を切って、かなり思い切った買い物をしたとのこと。現在、オリジナルの図表を使った解説記事は、イアブック、モニター誌ともにピースデポの「売り」として、高い評価を得ています。こうした活動に、プリンターはその性能をフルに発揮してきました。

そんなプリンターの調子が明らかにおかしくなってきたのは、去年のイアブック版下作成の頃だったでしょうか。理由なく突然現われる「用紙切れ」「トナー切れ」のエラーメッセージで作業がしばしば中断され、1ページの印刷に何十分もかかったあげく、すっかり忘れた頃にやっと動き出す、ということが続くようになりました。下版日の深夜には、編集部一同、「頼むからちゃんと動いてくれ」と祈るような気持ちでプリンターを見つめてきました。



「核兵器・核実験モニター」創刊号(1995年7月15日)

さて、こうして何とかここまで「老プリンター」をなだめすかしながら使ってきましたが、さすがに限界となってきました。来年度も、私たちは、さらに読みやすく、使いやすく、質の高いデータを会員・購読者の皆さまに提供していきたいと思っています。そのためには、作業をスムーズに行える、新しいプリンターの購入が不可欠です。

どうか、ピースデポの次世代を支えるプリンターの購入に、皆さまの<ひとつの力>をわけてください。前号のモニターと一緒に送付したカンパのお願いにありますとおり、プリンターの購入に必要な金額は、35万円です。先日のカンパ要請以来、温かいカンパをいただきましたがまだ足りません。ぜひ皆さまのご協力をお願いします。(お振込には同封の郵便振替用紙をご利用ください。用紙に、「冬季カンパ」と明記ください。)

- 郵便振替 00250-1-41182「特定非営利活動法人ピースデポ」通信欄に「冬季カンパ」と書いてください。
- 銀行 横浜銀行 日吉支店(普通)1561710「特定非営利活動法人ピースデポ」振込の入力画面でお名前の前に「カンパ」と記入をお願いします。

イアブック

「核軍縮・平和」 2006

あなたのまわりに ひろげてください!

もうお手元に一冊お持ちでしょうか?

7月10日発行の「イアブック『核軍縮・平和』2006」は、わかりやすいキーワード解説、豊富なデータ・資料に加え、新たに「索引」や「用語解説」も登場し、いっそう使いやすく充実した内容でお届けしています。

どうか、あなたの周りにイアブックをひろげてください!

こんなことをお願いします。

- ◎ 10冊程度の預け売りをお願いします。事務局までご連絡を。
- ◎ 地域や学校の図書館にイアブックをリクエストしてください。

◎ 地域の自治体の平和担当部署にイアブックを薦めてください。

- ◎ 地域での勉強会、セミナーなどの教材としてご利用ください。
- ◎ 所属の団体の機関紙などでイアブックを宣伝してください。



イアブック「核軍縮・平和」2006
～市民と自治体のために
監修: 梅林宏道
企画・執筆: ピースデポ・イア
ブック刊行委員会
発行: NPO法人ピースデポ
発売元: 高文研

★会員価格: 1,500円
★一般価格: 1,800円
(ともに送料別)

ピースデポまでご注文を!

メディアの取材も受けました。「長崎新聞」(2006年8月23日)

NGO的 研究スタイル の魅力

山口響(ピースデポ奨励研究員)

今年5月に奨励研究員になってからもうずいぶん経ちます。任期は1年間で来年4月いっぱいまでなので、もう折り返し地点を過ぎてしまいました。皆さまへのご挨拶が遅れたことをままずお詫びします。

「奨励研究員」は、若い世代がまだまだ勉強を続けながらも執筆や研究のチャンスを与えられるという制度です。大学では助手や研究生などという制度もありますが、NGOではかなり珍しいのではないのでしょうか。

私自身はいま大学院生で、イギリスの刑事政策という、軍縮や安全保障とはあまり関係のない分野を大学では研究しています。ですが、軍縮分野にも関心があり、ピースデポをはじめとした平和運動に1999年頃から関わり始めました。明治学院大学の修士課程に入学した年のことです。その後、現在まで、『モニター』の発送作業や集会の運営、ワークショップの企画などをやってきました。そうして6年ほど経ったころ、この奨励研究員という制度ができたのです。

ピースデポでは、米印の原子力協力問題を中心に調査を進めています。来年に入ったら、この問題でワーキングペーパーを出すことも予定しています。このテーマは、研究員に応募した時の研究計画書の中に私自身が書き込んでいたもので、それがピースデポ側のニーズとちょうど一致したのです。

世間では、核問題といえば「北朝鮮問題」ということになっています。夕方のニュースなどは北朝鮮の悪魔的な姿ばかり

06年に行った新規事業の一つが「ピースデポ奨励研究員」の募集でした。NGOの調査・研究に関心を持つ研究者層の拡大につながる画期的な取り組みとして、大きな成果をあげつつあります。以下、初代「奨励研究員」となった一橋大学院生の山口響(やまぐち・ひびき)さんからの感想です。

を毎日のように垂れ流しています。しかし、核保有国インドとの核技術協力はそれ以上に大きな意味を持っているはずで、これははっきり言って「やったもん勝ち」の世界で、アメリカと仲良くしてさえいれば核保有が認められるというのでは、自ら核兵器を放棄している世界の大多数の国に顔向けできません。おおよそこういうようなことを考えながら、その主張を具体的な事実で裏付けながら打ち出していく、それがこのピースデポで私がやっている仕事です。

もちろん、インド問題以外にも、イラン、北朝鮮、イギリスなど、必要があればどんなテーマでもやります。ある意味、こういう具合に「何でも屋」的に様々な題材を勉強していくのはとてもためになります。何らかの事態が生じた時に臨機応変にその問題をリサーチする、それがNGOの流儀とでもいえるのでしょうか。

あと数ヶ月で任期も終わってしまいますが、私としては、日本の軍事予算や軍民転換をめぐる問題、米国の核兵器生産複合体の政治プロセスなど、まだまだ研究したいことがいっぱいあったな、という感じです。

そういう個人的感想はさておき、ピースデポの事務所に週2回働いてみて感じることは、いかに事務所がてんでこ舞いで動いているかということです。いまは専従も1人しかおらず、本当に大変です。ぜひ会員の皆さまのさらなるご支援をお願いできれば、と考えている次第です。◆◆



写真で見るピースデポの取組み

今年は、初めて開催された「世界平和フォーラム」や、3年に一度の「地球市民集会ナガサキ」などの核廃絶に向けて取り組んでいる国内外のNGOや市民が一堂に会する大きな機会がありました。ピースデポの日々の取り組みのすべてをここで紹介することはできませんが、その中の一部を写真とともに紹介します。

●文・写真：塚田晋一郎(ピースデポインターン)

6月23～28日、バンクーバー(カナダ)
「世界平和フォーラム2006」
(World Peace Forum2006)

バンクーバー市、市民、世界各国のNGOによって開催された、初の世界平和フォーラムには、約5000人が集まり、核兵器、環境、人権といった、平和につながる様々なテーマで350に及ぶセッションが企画された。

<写真左>25日に行われたワークショップ「東北アジア非核地帯」。ピースデポ、平和ネットワーク(韓国)、太平洋軍備撤廃運動(PCDS、カナダ)による共催。コーディネーター：パティ・ウィリス。プレゼンター：梅林宏道、チョン・ウクシク、嘉指信雄、ほか。

<写真右>28日、バンクーバー市内で行われた閉会式にて。塚田本人。



9月22日、東京
「平和フロンティア講座
『北朝鮮のミサイル発射実験を考える』」

講師：秋月望 明治学院大学国際学部教授(朝鮮半島研究)、座長：梅林宏道。3回目となる「平和フロンティア講座」は、7月5日の北朝鮮のミサイル発射実験について、30年に渡る朝鮮半島研究者である秋月氏から、韓国、日本の反応や、現在の日本社会が「陥っている」対北朝鮮観への批判的分析が行われた。50名を超える参加者で会場は満杯に。熱心な質疑が行われた。

10月21日～23日、長崎
「第3回核兵器廃絶
—地球市民集会ナガサキ」

今回で3回目となった地球市民集会ナガサキ。3年前、6年前と比較すると参加者が少なかった点は残念であったが、海外からも多数のNGOゲストが参加し、閉会式では「長崎アピール2006」を採択、貴重な議論の場となった。

<写真右>22日に原爆資料館ホールで行われた分科会「非核兵器地帯と核の傘」。コーディネーター：梅林宏道。大きな会場が参加者で埋まった。

<写真左>平和会館のNGOブースに設置したピースデポのブース。今回から、ラミネート加工されたピースデポの紹介が新たに加わった。



①

改憲 国民の声さまざま 護憲

「論議はタブーではない」



「戦争起こさぬ予防こそ」

憲法を取り巻く状況について説明する田舎さん
憲法記念日
水戸で集会
5/22 '06 通常型要求譲らず
反対姿勢アピール

論議はタブーではない
この空襲をアビールし
する空襲をアビールし
する空襲をアビールし
する空襲をアビールし

憲法記念日
水戸で集会
5/22 '06 通常型要求譲らず
反対姿勢アピール

論議はタブーではない
この空襲をアビールし
する空襲をアビールし
する空襲をアビールし
する空襲をアビールし

通常型要求譲らず
反対姿勢アピール
反対姿勢アピール
反対姿勢アピール

憲法記念日
水戸で集会
5/22 '06 通常型要求譲らず
反対姿勢アピール



Nationwide rallies debate major changes to peace Constitution

By YU YOSHITAKE and MAYUKO TOKI
Staff Writers

⑤

As the nation observed the 59th year of the Constitution with a national holiday, many leaders were locked in debate over whether the document needed a major revision.
Constitution Day rallies were held nationwide as citizens involved in peace movements stressed the importance of the pacifist clauses and nationalist intellectuals lobbied publicly for change.

"Article 9 is a kind of an oath that Tokyo wants to contribute to maintaining peace in East Asia," Lee Jun Kyu, policy director of the Civil Network for a Peaceful Korea in South Korea, said at a rally in Tokyo where several pro-Constitution groups gathered with about 4,000 participants.
He pointed out that Japan is nearing a point of reckoning with two-thirds of Lower House members agreeing the Constitution needs amending.
The Upper House election next year could be a critical test of sup-

port for the current Constitution.
At another rally arranged in central Tokyo involving the group Forum for Peace, Human Rights and Environment, South Korean activist Kang Hae Jung spoke on the importance of Article 9 of the Constitution, which renounces war.
"Japan has Self-Defense Forces and its troops were dispatched for PKO actions and to Iraq. In that sense what is written in Article 9 may have become a dead letter, but for us, the article is the reason to join hands with Japan-

ese citizens to pursue peace in our region," said Kang, who is a leader of the Asia Peace and History Education Network, a Seoul-based group.
Speaking to about 700 people, many affiliated with labor unions, she also presented a statement issued Tuesday by several South Korean civil groups saying, "Revision of the Constitution would bring permanent instability to Northeast Asia."
Ichiro Yuasa, a member of Japan-based citizens group Peace Depot, criticized the Japanese gov-

ernment, which Monday agreed to plans for transformation and realignment of U.S. forces.
He pointed out that the United States allows pre-emptive attacks in its policy, and the agreement could give the SDF a character which clearly violates the Constitution.
Takashi Ebashi, who chairs the forum and is a professor in constitutional law at Hosei University, said, "We must know that issues involving the Constitution are not Japan's concern alone."



市民の手で安全保障を
中村 桂子さん
市長

PAC3
4/30 7/31 '06
④ 「ノドン迎撃は無理」
梅林氏指摘 周辺有事に即応

米国の情報開法を対象の「ミサイルが
見方を示した。
梅林氏はPAC3
の軍隊を守るため
短距離ミサイルが対
と説明 迎撃する弾
は速度が速くなり
約千とされる北朝
ノドンミサイルのP

から「恒常的には千人
くらいが減る」と考
米軍が北朝鮮に
こたわることについて
「アメリカが一軍抑
の海兵隊で大事なのは

① 「改憲・護憲国民の声さまざま」(毎日新聞茨城版、06年5月4日)
② 「21世紀かながわの顔：中村事務局長インタビュー」(東京新聞神奈川版、06年7月3日)
③ 「通常型要求譲らず：原子力空母問題横須賀でシンポ」(神奈川新聞、06年5月22日)
④ 「PAC3/ドム迎撃は無理」(琉球新報、06年7月30日)
⑤ "Nationwide rallies debate major changes to peace Constitution"(The Asahi Shimbun, 06年5月4日)